

平成29年9月台風第18号による 出水の概要(速報版)について

※本速報に記載されている数値や図表は平成29年9月29日現在の速報値であり、
今後、変更となる可能性があります。

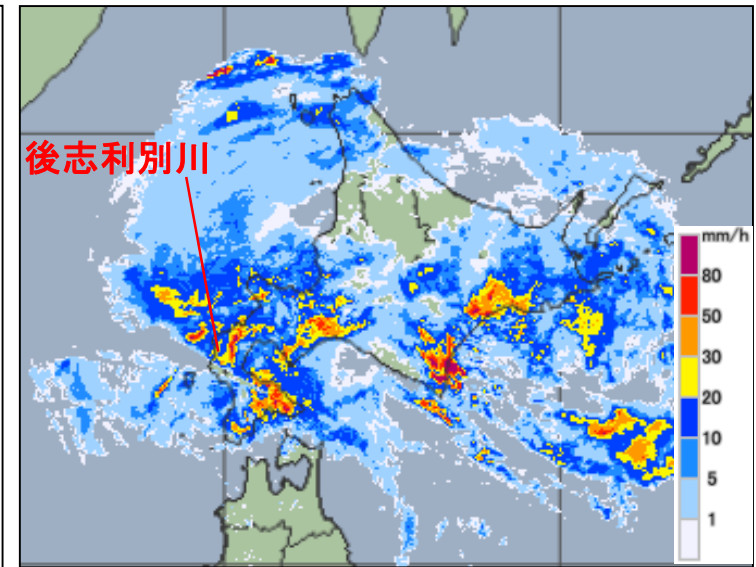
平成29年9月29日
国土交通省 北海道開発局
函館開発建設部

平成29年9月18日後志利別川における出水概要

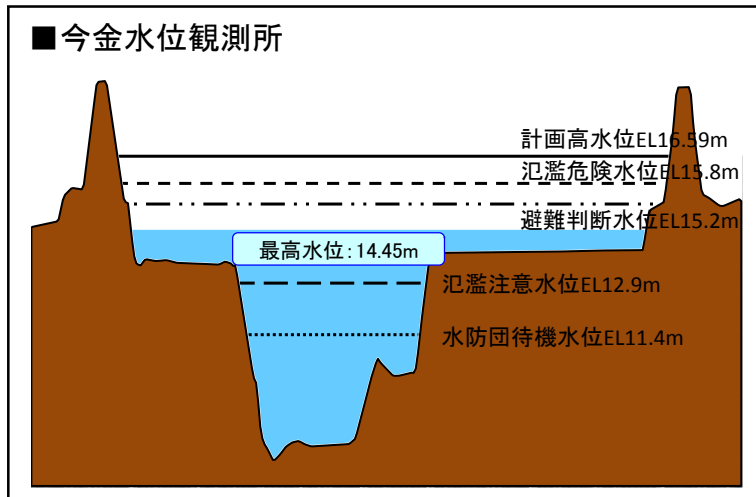
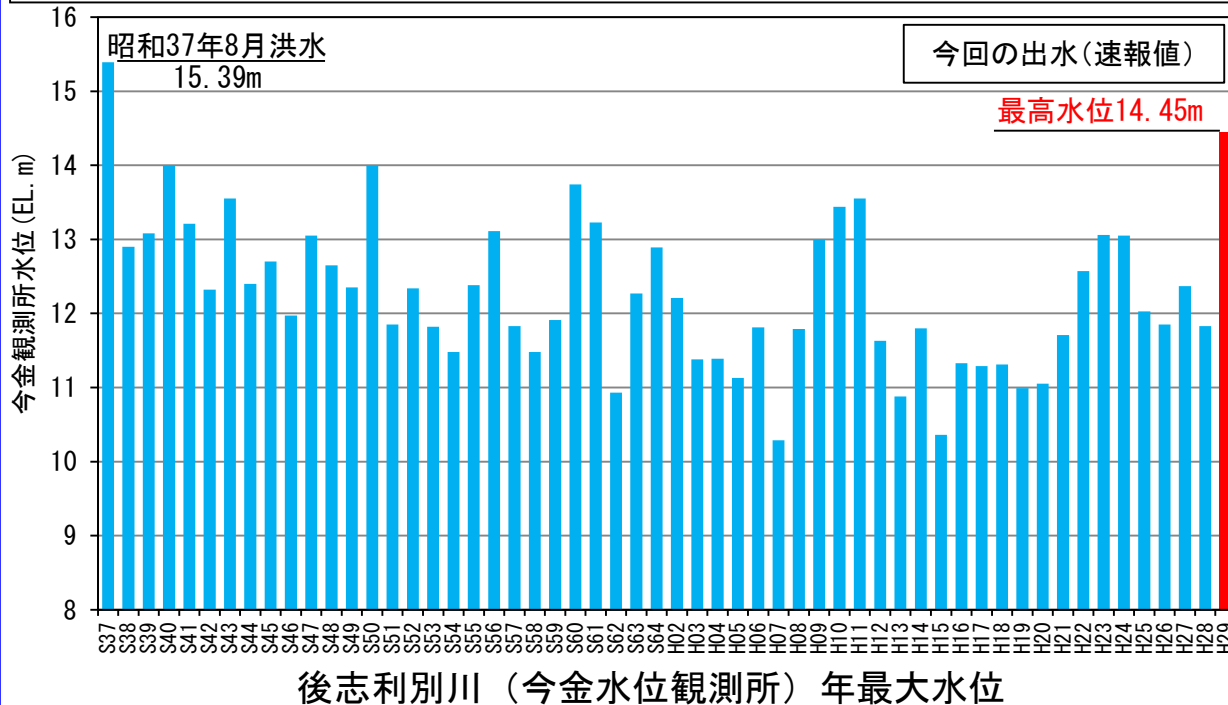
9月17日から18日にかけて、台風第18号の影響により、後志利別川では24時間の今金地点流域平均で180mmを超える大雨が降りました。特に上流部の美利河ダム流域では24時間の流域平均で280mmを超える激しい大雨を観測しました。

このため、後志利別川の今金水位観測所では「氾濫注意水位」を超え、昭和37年8月洪水に次ぐ高い既往第2位の水位を記録しました。また、住吉水位観測所では「避難判断水位」を一時超える出水となりました。

函館開発建設部では、これまで進めてきた河川整備や美利河ダムによる洪水調節によって水位低下を図りました。これにより、今回の出水では、各所で局所的な浸水被害が発生したものの、破堤氾濫等の甚大な被害は発生しませんでした。



9月18日9:00時点の雨量分布
気象庁 高解像度降水ナウキャストより



- ※ 氾濫危険水位：河川が氾濫する恐れのある水位や安全に避難するために避難を開始すべき水位
- ※ 避難判断水位：市町村からの避難準備・高齢者等避難開始などの避難情報が発表される目安となる水位
- ※ 氾濫注意水位：河川の氾濫の発生を注意する水位

H16以前は測地2000標高に換算

後志利別川の出水状況・浸水状況

後志利別川では、台風第18号による大雨の影響により、農地等の約25haの内水氾濫が発生しました。



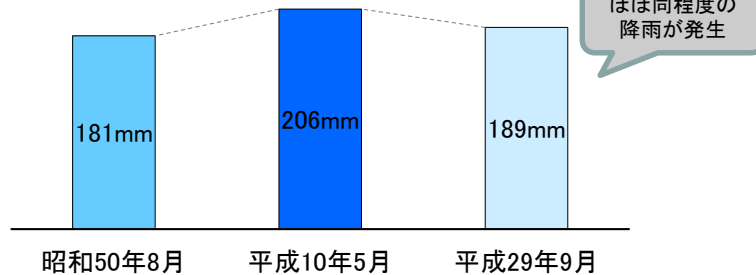
治水事業の効果(後志利別川)

後志利別川では、築堤、河道掘削等を順次進め、平成3年に美利河ダムを整備しています。
 平成29年9月の台風第18号による大雨では、昭和50年8月や平成10年5月と同規模の降雨を記録しましたが、後志利別川流域において浸水被害等は大幅に減少しました。これは、雨が上流部に集中したことで下流低平地の浸水が少なく、より少ない被害となったことが要因と考えられます。

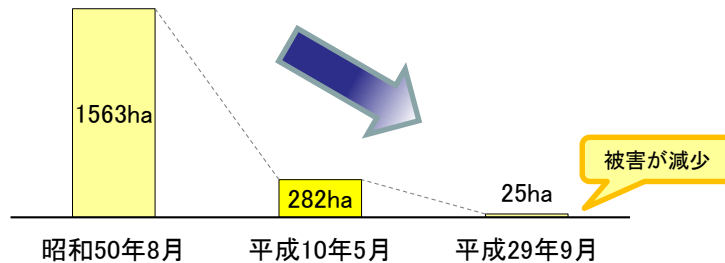
発生年月	流域平均雨量 (mm/24H)	氾濫面積 (ha)	被害家屋数 (戸)
昭和50年8月	181	1563	133
平成10年5月	206	282	23
平成29年9月	189	25	0

同程度の降雨が発生した出水について

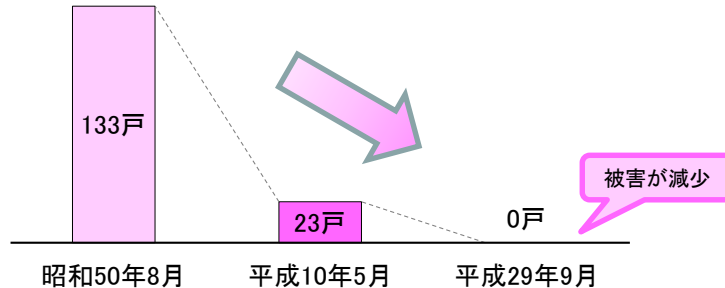
<流域平均雨量>



<氾濫面積>



<被害家屋>



昭和50年8月洪水

台風第5号による大雨の影響により、後志利別川が氾濫し、家屋の床上・床下浸水、田畑の冠水等の大きな被害を受けました。

昭和50年当時の浸水範囲



今回の出水

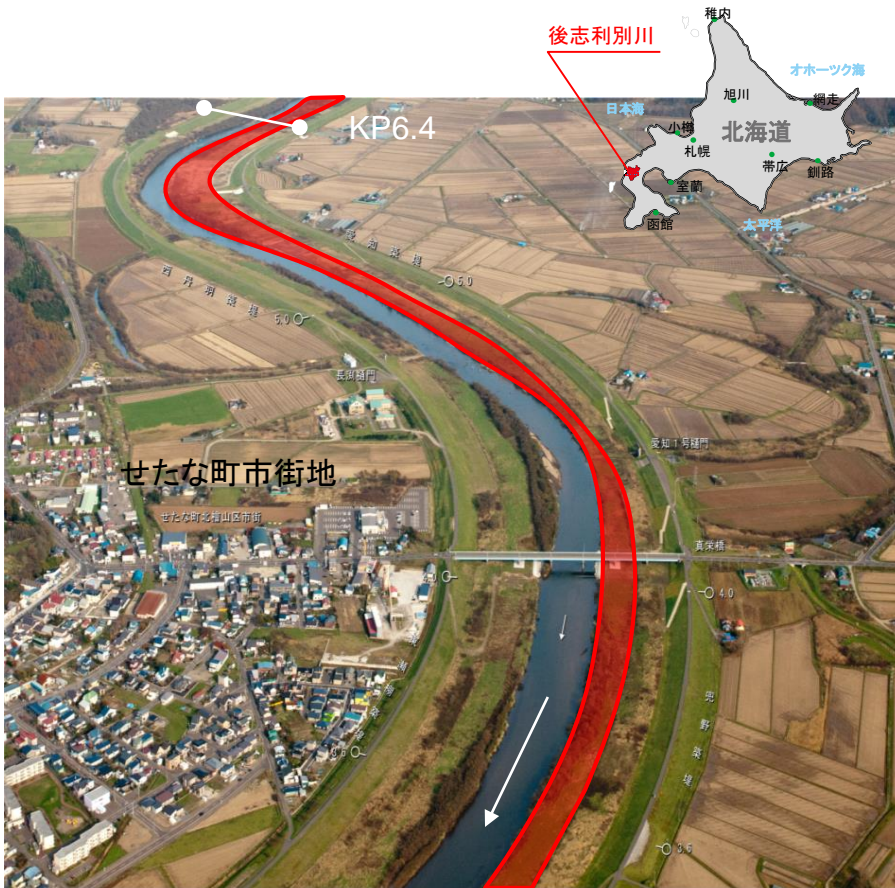
今回の浸水範囲



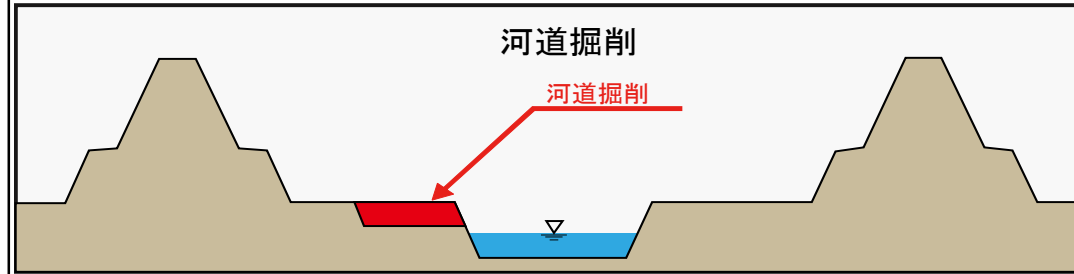
洪水に対し河川整備[河道掘削]が効果を発揮(後志利別川)(国管理)

- 平成29年9月18日、台風第18号による豪雨により後志利別川流域において出水が発生。
- これまで実施してきた河川整備[河道掘削]によって約0.6mの水位低減効果を果たし、洪水があふれる危険性を低下させました。

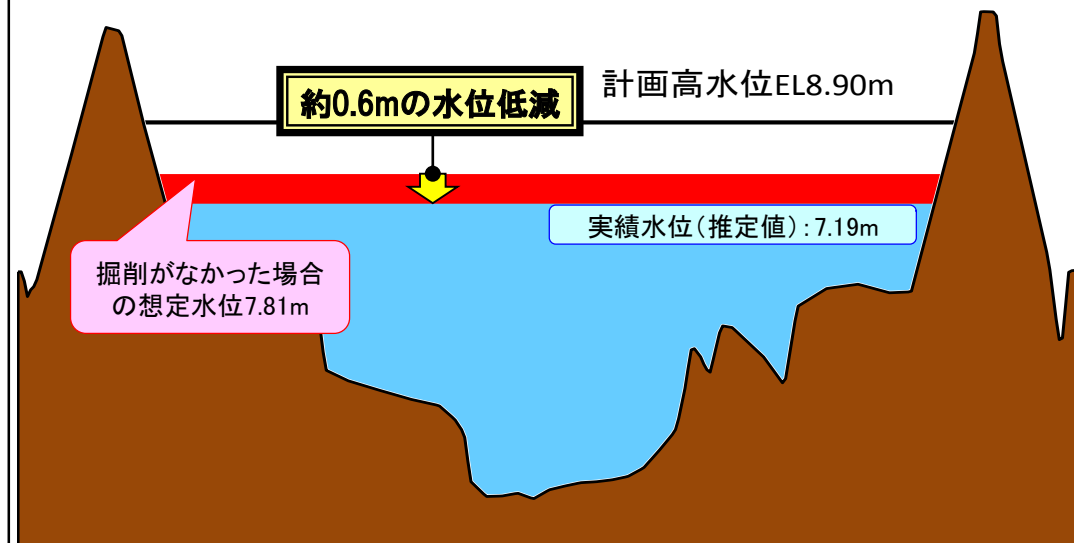
掘削による水位低減効果(KP6.4)



■ 整備概要

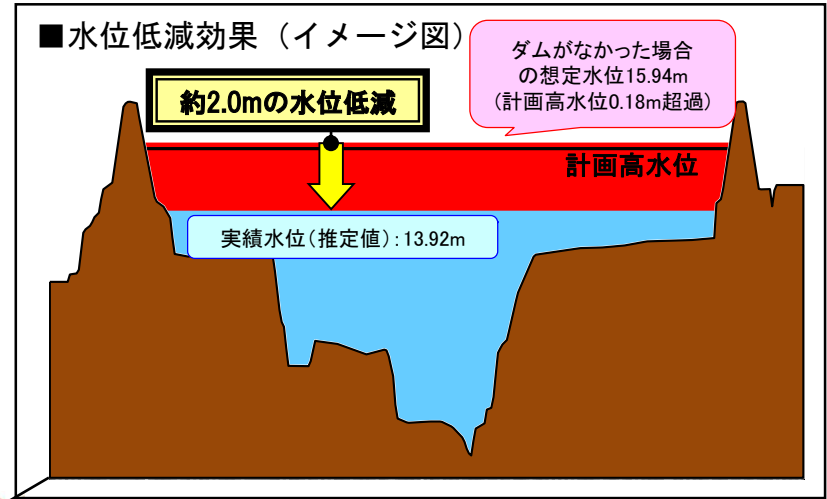
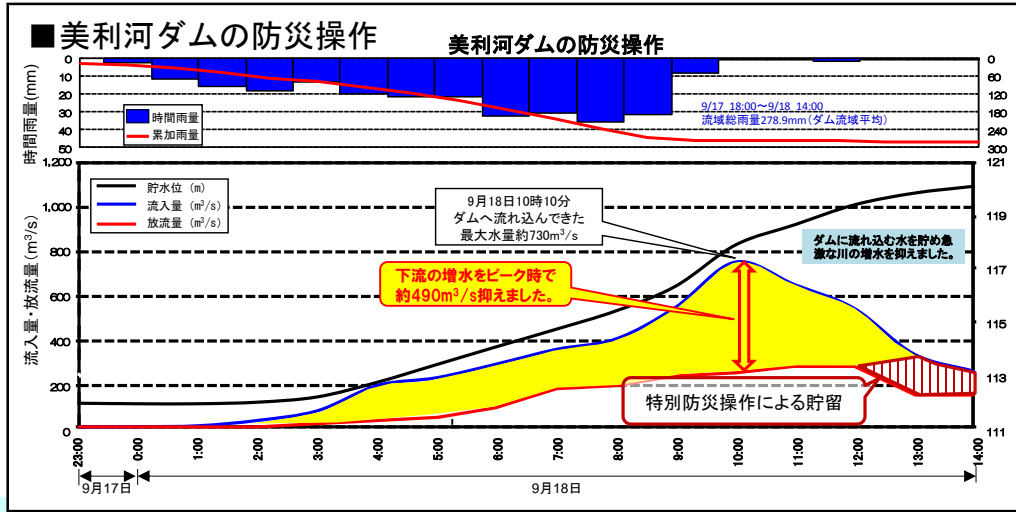


■ 水位低減効果 (イメージ図)

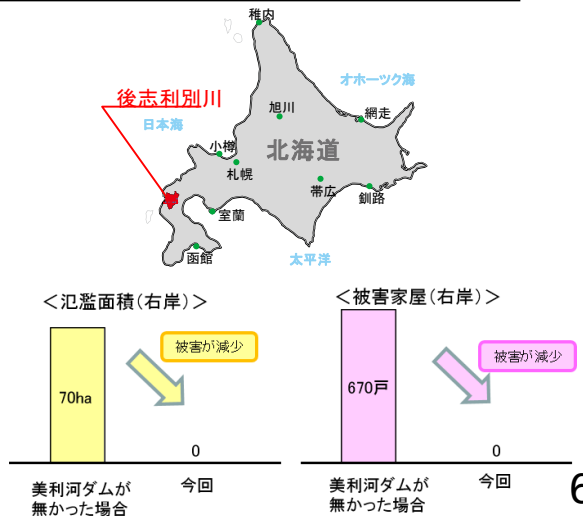
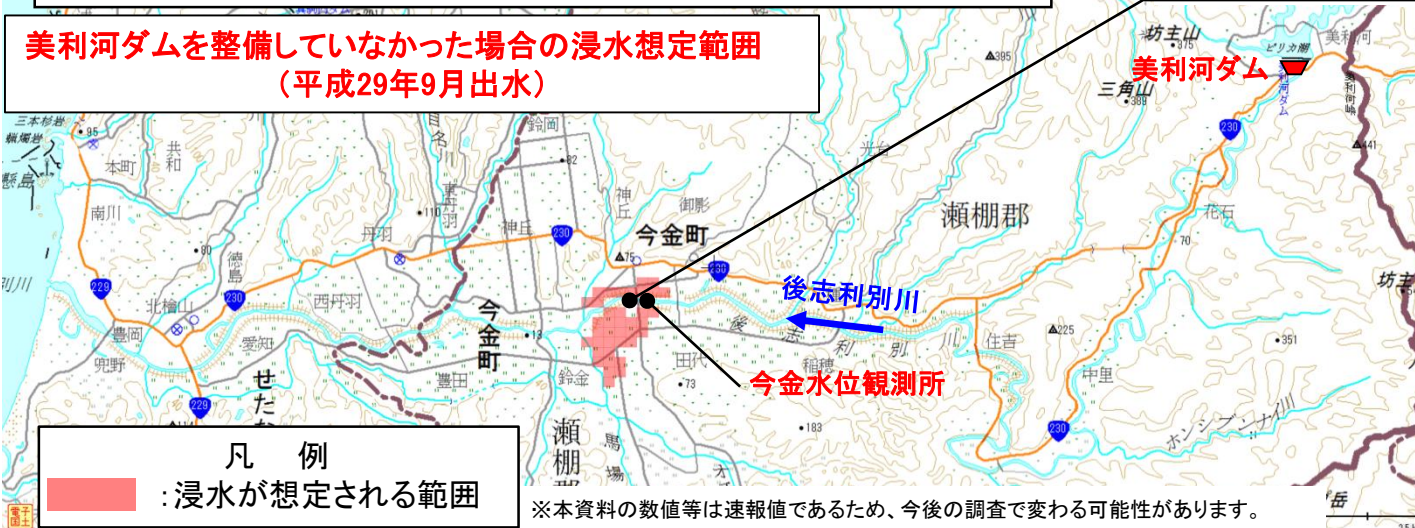


平成29年9月台風第18号の影響による洪水に対する美利河ダムが効果を発揮（後志利別川）

- 9月18日、台風第18号による豪雨により後志利別川流域において出水が発生。今金水位観測所では、昭和37年出水に次ぐ、**既往第2位の水位を観測しました。**
- 美利河ダムの洪水調節等によって下流河川の水位低減**を図り、今金水位観測所では避難判断水位以下に抑制しました。また、下流河川の状態を踏まえ通常の操作よりも多くの洪水を貯留する操作（特別防災操作）を実施しました。
- 仮にダムが整備されていないならば、今金町市街地付近において計画高水位を上回る出水となり、市街地がある**右岸が破堤した場合は約70ha、約670戸の浸水、左岸で破堤した場合、約200ha、約30戸の浸水**が発生していたおそれがありました。



**美利河ダムを整備していなかった場合の浸水想定範囲
(平成29年9月出水)**

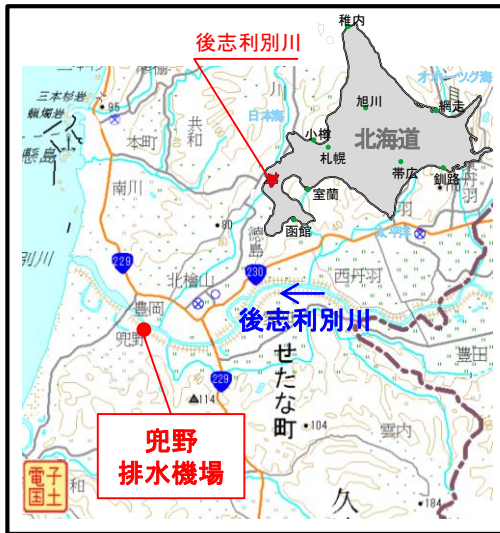


排水機場が効果を発揮(北海道 兜野排水機場)(国管理)

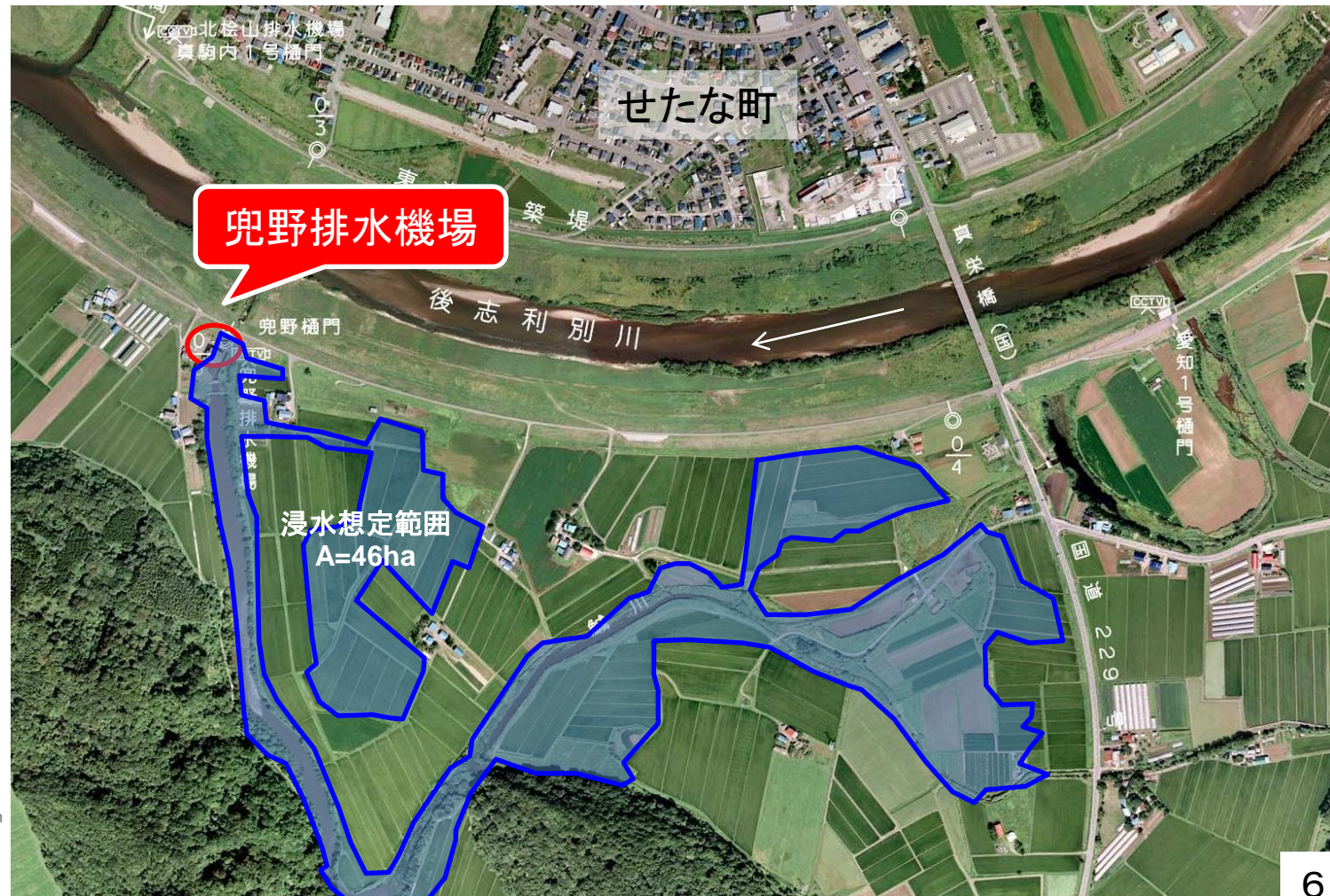
○平成29年9月18日、台風第18号による豪雨により後志利別川流域において出水が発生。

○兜野排水機場は約18時間稼働し、約23万m³の内水排除を実施。

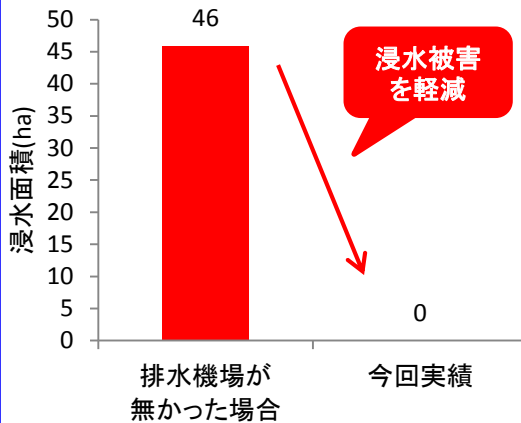
仮に排水機場がなかった場合、約46haが浸水したと想定されます。



排水機場がなかった場合の浸水想定範囲(平成29年9月出水)



浸水想定面積 (ha)



函館開発建設部の取組

- 降雨や出水等の状況に応じて地域の迅速・的確な行動や被害状況の早期発見のため、気象及び河川の情報を監視し、管理施設の操作を行いました。
- 堤防などの管理施設の状況や氾濫被害の発生状況確認のため、河川巡視及び監視による現地調査を行いました。また、防災ヘリコプターにより上空からの調査を行いました。
- 自治体との情報共有や連携を密にするため、せたな町、今金町にリエゾン(現地情報連絡員)を派遣し、連携を強化しました。
- 浸水被害を軽減するため、せたな町、今金町からの要請により排水ポンプ車を派遣しました。

リエゾンの派遣による情報収集・情報提供



※リエゾン(現地情報連絡員)とは災害時、当部から自治体へ連絡員を派遣し、両者相互の情報共有や連携を密にするものです。



排水ポンプ車による排水作業

河川巡視状況



防災ヘリによる上空調査(今金町付近)



樋門操作状況



ダム操作状況

